

◀ 書 評 ▶

W. W. Glas M. D. S. E. Gould, M. D. 著

“The acute abdomen”

京府医大 増田内科 川 井 啓 市

急性腹症と総称される疾患群は一般に急激な腹痛及び腹膜刺激症状を呈し、多くは緊急の外科的処置が必要な疾患群である。その範囲は膨大で、広く内科・外科・婦人科・産科泌尿器科及び小児科にわたる。また臨床症状は複雑で、鑑別診断が困難なために、関係各分野の医師達を最も悩ませる疾患群の一つでもある。このような広範な領域にわたる疾患群であるため、その原因も複雑多岐にわたり迅速な判断のもとに適確な診断を下し、外科的治療の適否を決定することが、とくに極めて重要になってくる。また正確な早期の診断は以後の経過を大きく左右するた

め、それぞれ関係分野の医師達の緊密な協力のもとに慎重に行なわねばならない。

本書は Wayne County General Hospital, Eloise, Michiganの内科、産科、婦人科、小児科および外科の医師達が各々の専門の分野を中心に互いに各科で横の連絡をとりながらまとめた急性腹症の診断学及び治療の教科書であり、本書の特徴となっているのはこの各分野相互間の連絡の緊密なことで、従来の成書にはこうした横の連絡の密なものは甚少ない。特に鑑別診断を中心に簡略にしかも合理的に整理されており、とかく専門領域にのみかたよりがちな

私達臨床医にとって、視野を広くかつ記憶を新たにし、又日々の臨床の反省のために好適の書である。多少独善的な診断方法の記述もあるが、極めてアメリカ人らしい臨床の考え方、治療に至る過程、またはその結果の分析に驚くほど新鮮なものがあり興味はつきない。

わかり易い、きれいな英語で書かれており、一般臨床医のみでなく、レジデント、インターンまたは医学生等、実地の臨床に携わる人々に是非一読をおすすめしたい書である。

(頁155 ¥3,000 The Williams & Wilkins Co. Baltimore1966)

医学書院洋書部扱